

訳語によって起る新約聖書 用語の屈折について(6)

加藤 邦 雄

引用文献略記

本文中にしばしば引用される書名を次のように符号で表現した。

1. LXX The Septuagint
2. Vulg Vulgata
3. Luther Luthersbibel
4. AV The Authorized Version
5. NEB The New English Bible
6. THWNT Theologisches Wörterbuch zum Neuen Testament
7. Köhler Köhler-Baumgartner, Lexicon in Veteris Testamenti Libros
8. Liddell Liddell-Scott, Greek English Dictionary
9. Oxford The Shorter Oxford English Dictionry
10. Syr The New Testament in Syriac(Peshitta)
11. Jenn Jennings, Lexicon to The Syriac New Testament
12. Buck Buck, A Dictionary of Selected Synonyms in the Principal Indo-European Language

BASILEIA

口語訳新約聖書で一般に「国」と訳されているギリシヤ語の *basileia* の背景にヒブル語の *malkuth* があつたと考えられる。なぜならば、新約聖書がギリシヤ語からシリヤ語に訳された時、後に具体的に示すように、*basileia* は、*malkuth* と同一系統のシリヤ語に訳されたことによつても推定されるからである。それで、*basileia* の意味を正確に規定する前に、その背後にあつた *malkuth* の意味をさぐり、それがどのようなギリシヤ語に訳されたかを検討せねばならぬ。

Köhlerによると、malkuthは次のように7種類に分類されている。

1. Königsherrschaft
2. Königswürde
3. Regierungstätigkeit
4. Regierungszeit
5. Königreich
6. Königlich
7. Von Yahweh gesagt

以上の中で、その引用個所を見ると次のようになっている。但し参考までに口語訳を挿入する。

1. Königsherrschaft 15回

サム上 20：31 (王国)

王上 2：12 (国)

民数 24：7 (国)

詩 45：7 (王の)

145：13 (国)

エス 1：4 (国)

ダニ 11：21 (王の)

代上 12：24 (国)

14：2 (国)

17：11 (王国)

28：7 (国)

代下 1：1 (国)

11：17 (国)

12：1 (国)

エレ 10：7 (国々)

以上の個所において、Köhlerはmalkuthを王の支配と解釈している。但し、口語訳はただの1回も「支配」と上記の個所では訳出しない。そこに、ヒブル語の意味と、口語訳との間に二千数百年の時間の距離と、ユダヤの国と日本の国との間にある、地球の直径に相当する距離がある。

2. Königswürde 4回

代上 11：10 (国)

エス 4:14 (国)

伝道 4:14 (国)

ネヘ 9:35 (国)

Köhlerよれば、王の權威とでも訳すべきところを口語訳ではいずれも「国」と訳した。

3. Regierungstätigkeit 1回

代上 29:30 (政)

4. Regierungszeit 19回

エレ 49:34 (治世)

エス 2:16 (治世)

ダニ 1:1 (治世)

2:1 (治世)

8:1 (治世)

エズ 4:5 (治世)

4:6 (治世)

7:1 (治世)

8:1 (治世)

ネヘ 12:22 (治世)

代上 26:31 (治世)

代下 3:2 (治世)

15:10 (治世)

15:19 (治世)

16:1 (治世)

16:12 (治世)

20:30 (国)

29:19 (治世)

36:19 (治世)

RegierungszeitとKöhlerが解釈した個所において、僅か1回を例外として、他はすべて「治世」と訳されている。

5. Königreich 18回

エス 1:14 (国)

1:20 (国)

エス	1:14	(国)
	1:20	(国)
	2:3	(国)
	3:6	(国)
	3:8	(国)
	5:3	(国)
	5:6	(国)
	7:2	(国)
	9:30	(国)
ダニ	11:4	(国)
	11:9	(国)
	11:17	(国)
	11:20	(国)
	9:1	(王となった)
	10:13	(国)
代下	36:20	(国)
ダニ	11:2	(国)
	8:22	(国)

以上の個所で、KöhlerがKönigreichすなわち「王国」と解した語を、口語訳では1回を例外として他はすべて、単に「国」と訳した。「国」なる語を和英辞典で引くと次のように訳されている。country, land, territory, domain, realm, dominion, empire, kingdom, republic, state, nation, polity, nationality, province, home, patriotism. 邦語「くに」となると、その意味はさらに多岐にわたるであろう。Königreichと「国」との間には、その語義の広さが非常に食い違っている。Königreichは国より遥かに限定された意味である。

6. Königlich 16回

エス	1:2	(国の)
代上	22:10	(王)
代下	7:18	(王の)
エス	1:7	(王の)
	1:11	(王)

	2:17	(王)
	1:19	(王の)
	6:8	(王)
	8:15	(朝)
	5:1	(王)
	1:9	(王)
	2:16	(王)
代下	1:8	(王)
	2:11	(王)
ダニ	11:21	(王の)
代上	29:25	(王)

以上の中で、王と書いたが意味からすると当然「王の」何々と、書き改めでもよい個所が多いので、*königlich*と訳すべきところは、「王の」と解されている。「朝」とある語は、「あさ」ではなくて「朝服」の「朝」であるから、恐らく「王の」意味であろう。

7. Von Yahweh gesagt Königsherrschaft 6回

詩	103:19	(まつりごと)
	145:11	(み国)
	145:12	(み国)
	145:13	(国)
代上	17:14	(王国)
	28:5	(国)

旧約聖書は衆知のごとく、その大部分はヒブル語で書かれているが、その少部分は、ヒブル語から変化したとも解さるべき、アラム語で書かれている。ヒブル語の *malkuth* はアラム語の *malku* (但し、*malkutha*なる形が例外的にはあるが) に相当すると解釈したい。

*malku*を Köhler は次のように、その意味を分類した。

1. Königswürde, Königsherrschaft
2. Regierungszeit
3. Königreich

ヒブル語の *malkuth* の場合と同様に、引用個所を示し、参考までに口語訳をも添えたい。

1. Königswürde, Königsherrschaft 12回

ダニ 2:37 (国)
 2:37 (国)
 2:44 (国)
 4:28 (国)
 4:33a (国)
 5:18 (国)
 6:1 (国)
 7:18 (国)
 7:22 (国)
 4:27a (国)
 4:29 (王)
 5:20 (王)

2. Regierungszeit 3回

ダニ 6:29 (世)
 エズ 4:24 (治世)
 6:15 (治世)

3. Königreich 33回

ダニ 2:39 (国)
 2:39 (国)
 2:40 (国)
 2:41 (国)
 2:42 (国)
 2:44 (国)
 2:44 (主権)
 3:33 (国)
 4:15 (国)
 4:23 (国)
 4:33b (国)
 5:7 (国)
 5:11 (国)
 5:16 (国)

	5:26	(治世)
	5:28	(国)
	5:29	(国)
	6:2	(国)
	6:4	(国)
	6:5	(国)
	6:8	(国)
	6:27	(国)
	7:14b	(国)
	7:27b	(国々)
エズ	7:13	(国)
	7:23	(国)
ダニ	4:14	(国)
	4:22	(国)
	4:29	(国)
	5:21	(国)
	3:33	(国)
	4:31	(国)
	7:14	(主権)

ヒブル語のmalkuthにしても、アラム語のmalku (あるいはmalkutha) にしても、melek (王) に由来すると共に、もっと根源的にはmalak(支配する) なる語にも由来するので、malkuthやmalkuをそのまま、ギリシヤ語のbasileia に訳することは、本来の含みのある語義をかなり狭く解釈することになる。そこで、malkuthおよびmalkuが、LXXにおいて、どのようなギリシヤ語に訳されたかを次ぎに示したい。(但し、すでに述べたKöhlerの引用した個所と、幾分相違する所がある。それはテキストの読み方に起因する。両者の相違を完全に一致させるまで、テキストの批判を完全にする時間がなかったことを断わらざるを得ない。)

malkuth	89回	
1. basileia	69回	註1
2. basileus	6回	註2
3. basiluein	3回	註3

訳語によって起る新約聖書用語の屈折について

- | | | |
|-------------------|----|----|
| 4. basilikos | 2回 | 註4 |
| 5. basileios | 1回 | 註5 |
| 6. entronizesthai | 1回 | 註6 |
| 7. doxa | 1回 | 註7 |
| 8. 欠如又は不明 | 7回 | |

malkuthがbasileiaと訳された回数は89回中の69回であるから、その割合は、77パーセントである。それ以外のもは20回であるから23パーセントになる。

malkuthがbasileiaと訳された個所は次のごとくである。

民数 24：7.

サム上 20：31.

王上2：12.

代上 11：10. 12：23. 14：2. 17：11. 17：14. 22：10. 26：31. 28：5.
28：7. 29：30.

代下 1：1. 2：1. 2：12. 3：2. 7：18. 11：17. 12：1. 15：10. 15：19.
16：1. 16：12. 20：30. 29：19. 33：13. 35：19. 36：20. 36：22.

エズ 1：1. 4：5. 4：6. 4：6. 7：1. 8：1.

ネヘ 9：35. 12：22.

エス 1：4. 1：20. 2：3. 2：16. 3：6. 3：8. 5：1. 5：3. 7：2.

詩 45：6 (7). 103：19. 145：11. 145：12. 145：13. 145：13.

伝道 4：14.

ダニ 1：1. 1：20. 2：1. 8：1. 8：23. 9：1. 10：13. 11：2. 11：4. 11
：4. 11：9. 11：17. 11：20. 11：21. 11：21.

malkuthがbasileusと訳された個所は次のごとくである。

代上 29：25.

エス 1：7. 1：14. 6：8. 6：8.

ダニ 8：22.

malkuthがbasileueinと訳された個所は次のごとくである。

エス 1：11. 4：14.

エレ 52：31.

malkuthがbasilikosと訳された個所は次のごとくである。

エス 1：19. 8：15.

malkuthがbasileiosと訳された個所は次のごとくである。

エス 1:9.

malkuthがenthronizesthaiと訳された個所は次のごとくである。

エス 1:2.

malkuthがdoxaと訳された個所は次のごとくである。

エス 5:1.

malkuthなる語が、そのままギリシヤ語で表現されてないか、あるいは、不明確な個所は次のごとくである。

エス 5:1. 5:6. 9:30.

エレ 10:7. 49:34.

エス 2:17.

アラム語のmalkuは次のようなギリシヤ語に訳された。

- | | |
|-------------|-----|
| 1. basileia | 54回 |
| 2. basileus | 1回 |
| 3. 欠如 | 2回 |

57回のmalkuの中、basileiaが54回あったとすると、その割合は、95パーセントであって、malkuthとbasileiaとの比にくらべて、その占める割合合いが大きい。

malkuがbasileiaと訳された個所は次のごとくである。

エズ 4:24. 6:15. 7:13. 7:23.

ダニ 2:37. 2:39a. 2:39b. 2:40. 2:41. 2:42. 2:44a. 2:44b.
2:44c. 4:3a. 4:3b. 4:14. 4:17. 4:18. 4:25. 4:26. 4:29.
4:30. 4:31. 4:32. 4:34. 4:36a. 4:36b. 5:7. 5:11. 5:16.
5:18. 5:20. 5:21. 5:26. 5:28. 5:29. 5:31. 6:1. 6:3. 6:7.
6:26a. 6:26b. 6:28a. 6:28b. 7:14a. 7:14b. 7:18a. 7:22.
7:23a. 7:23b. 7:24. 7:27a. 7:27c. 7:27d.

malkuがbasileusと訳された個所は次のごとくである。

ダニ 7:27b.

malkuがギリシヤ訳に欠如している個所は次のごとくである。

ダニ 6:4. 7:18b.

- [註] (1) basileiaはbasileusに由来する。Buckによると、basileusはギリシヤ語以前の古い語に起源を持っているのではないかと言われているようである。Liddell-Scottによると、basileiaは、それ故に、第一義的には、kingdom, dominion——但し、kingdomとかdominionとか英訳してもその正

確な意味を規定することは容易でなく、後に英訳を論ずる所で改めて述べねばならぬが——であり、次に、kingly office とされ、さらに諸種の用法ができたようである。

- (2) basileus は king, chief であって、後には Tyrannos と対比して用いられた hereditary king を意味したようである。
- (3) basileuein は、おそらく basileus に由来し、to be king, rule, reign の意であった。
- (4) basilikos は、次に述べる basileios と同様に、basileus に由来し、royal とか kingly と訳される。
- (5) basileias は kingly 又は royal と訳される。
- (6) enthronizesthai を active の形に戻せば enthronizein になり、en と thronos とより成立する。したがって、to place on a throne の意味である。
- (7) doxa は元來 notion, opinion であったが、good report, honour の意味となり、今日では一般に glory の意味として知られるようになった。

Karl Ludwig Schmidt が THWNT BdI, S 579 以下、Basileia なる項ですでに述べているように、basileia なる語は一般的に見て、それは das Sein, bas Wesen, den Zustand des Königs をあらわす意味での Königreich であり Reich (この語の意味については後に述べる機会があるが) であった。ところが、次に、die Würde des Königs そのものが Reich と言う Gebiet を意味するようになった。それで basileia と言う時、王の支配を中心としてこれを意味するのか、それとも、王が支配している国土を中心としてこれを意味するのか、あるいは、さらに王の支配と国土とをいつも同時に意味するのか、その正確な判断を一律に下すことは決して容易でない。

S. Szikszar は The Interpreter's Dictionary of the Bible の "King, Kingship" の項の中で、The Greek word basileia is the LXX (e.g. Tob. 13:1) and NT (e.g. Luk 1:33) expression for "kingship" と規定する。又、同じ辞典の "Kingdom of God, of Heaven" の項で O. E. Evans は、旧約における kingdom 一般についてではなく、kingdom of God にのみ限定して語っているのではあるが、次のように述べている。

The actual phrase "kingdom of god" does not appear in the OT, except for one occurrence of the form "kingdom of the Lord" (malkuth Yahweh) in one of the latest books (1 Chr. 28:5). The word "kingdom," however, is sometimes used in relation to God. "Thy kingdom" occurs in Pss. 45:6 ERV; 145:11, 13; and "his kingdom" Pss. 103:19; 145:12 RSV mg. In 1 Chr. 17:14 "my kingdom" appears

on the lips of “the Lord of hosts.” In all fore going passages the Hebrew word is malkuth.…… The different Hebrew and Aramaic words for “kingdom” mentioned above, when applied to God, all have, as their primary meaning, the idea of “kingship,” “sovereignty,” or “kingly rule.”

Vulgataにおけるmalkuthのテラン訳を見ると次のようになっている。

1. regnum	67回	註1
2. rex	7回	註2
3. regius	5回	註3
4. Palatium	4回	註4
5. regalis	1回	註5
6. residere	1回	註6
7. provincia	1回	註7
8. edictum	1回	註8
9. imperium	1回	註9
10. 欠如	1回	註10

- [註] (1) regnumは次の註に出て来るrexに由来するが、本来はkingly government, royal authority, kingship, の意味であって、それからdominion, sovereignty, rule, authority, supreme power や、despotism, tyranny, personal sovereignty, arbitrary ruleの意味にさえ転じ、最後にkingdom, state governed by a kingや、territory, estate, possessionなどの意味になった。ギリシャ語のbasileiaとラテン語のregnumとは、相当程度よく類似していて、LXXでbasileiaとある個所の圧倒的多数がそのままregnumと訳されているような印象を与える。basileiaがbasileusに由来するように、regnumはrexに由来するが、次第にregnumがrexとの関連を一般には忘れられて、使用された向きがないでもない。
- (2) rexは、stretchやguideを意味するreg.またはrigに由来するが、arbitrary ruler, absolute monarch, kingを意味する。ある場合はdespotやtyrantにも用いられ、lord, prince, head, chief, leader, master, great man位の意味にも使用された。
- (3) regiusはrexに由来し、of a king, kingly, royal, regalを意味する。
- (4) Palatiumは本来Augustusのresidenceが置かれていたPalatine hillの意味であったが、普通名詞としては、Palaceを意味した。
- (5) regalisはrexに由来し、regiusとよく似ていて、of a king, royal, regalの意味である。
- (6) residereはto sit down, settleの意味である。

訳語によって起る新約聖書用語の屈折について

- (7) provincia から英語の province が出て来たが、本来は office, duty, charge, business, province の意味で、それがいろいろの意味に変化した。たとえばローマ以外の territory における government も provincia であった。
- (8) edictum は magistrate や general-in-chief の発する proclamation, ordinance, edict, manifesto の意味である。
- (9) imperium は to command を意味する imperare に由来し、command, order, direction, injunction を先ず意味した。次いで、command を出す authority, control, power, などの意味になり、supreme power, sovereignty, dominion, empire その他の意味に用いられた。

malkuth のラテン訳として以上の 9 種類の語の使用箇所は 以下のごとくである。

1. regnum 2 以下 9 までの語が用いられていない箇所は、ただ 1 箇所を例外としてすべて regnum である。
2. rex 代上 11:10. 代下 36:20. エス 2:16. 6:8. 8:15. 9:30. ダニ 8:22.
3. regius エス 1:11. 5:11. 6:8. ダニ 11:20. 11:21.
4. palatium 代下 2:1. 2:12. エス 1:9. 5:1.
5. regalis エス 5:1.
6. residere エス 1:14.
7. provincia エス 2:3.
8. edictum エス 1:19.
9. imperium エス 1:20.
10. 欠如 エス 1:7.

89 回の malkuth の中で、regnum と訳された箇所は 67 回であるので、その比は 75 パーセントである。malkuth に対する basileia の占める率は 77 パーセントであったのと、regnum の 75 パーセントを比較すると、その差は僅かである。そこで、LXX における malkuth の訳としての —— 他のヒブル語が basileia と訳されている例が少なからずあるが —— basileia と、Vulg の regnum とは大体において平行していると見てよさそう。

アラム語の malku は Vulg において次のようなラテン語に訳されている。

1. regnum 55 回
2. aula 1 回 (註 1)
3. rex 1 回

(註) (1) aula はギリシャ語の aulē に由来し、court, fore-court, yard であるが、

訳語によって起る新約聖書用語の屈折について

palace, residence, royal court の意味にも用いられた。

以上の3つ語の使用箇所は次のごとくである。

1. regnum 2の aula と 3の rex とを除いた他のすべては、regnum と訳された。

2. aula ダニ 4 : 29(26)

3. rex ダニ 6 : 4(5)

LXX において、malku が 95 パーセントまで basileia と訳されたように、Vulg においても malku の 96 パーセントが regnum と訳された。それ故に LXX における malku の訳としての basileia と Vulg における malku の訳としての regnum とは大体平行していると見て大きな誤りはないであろう。

Luther 訳において、malkuth は次のようなドイツ語に訳されている。

1. Königreich 55 回

2. königlich 15 回

3. Reich 14 回

4. König sein, werden 3 回

5. regieren 2 回

以上の語が用いられている箇所は次のごとくである。

1. Königreich

サム上20 : 31. 王上2 : 12. 代上11 : 10. 12 : 23. 14 : 2. 17 : 11. 17 : 14. 26 : 31. 28 : 5. 28 : 7. 29 : 25. 29 : 30. 代下2 : 1. . . 2 : 12. 3 : 2. 7 : 18. 11 : 17. 12 : 1. 15 : 10. 15 : 19. 16 : 1. 16 : 12. 20 : 30. 33 : 13. 35 : 19. 36 : 20. 36 : 22. エズ1 : 1. 4 : 5. 4 : 6 b. ネヘ9 : 35. 12 : 22. エス1 : 4. 1 : 14. 2 : 3. 3 : 6. 3 : 8. 5 : 3. 5 : 6 : 7 : 2. 9 : 30. 詩 145 : 11. 145 : 12. 伝道4 : 14. エレ10 : 7. 49 : 34. ダニ8 : 1. 8 : 22. 8 : 23. 9 : 1. 10 : 13. 11 : 2. 11 : 17. 11 : 21 a. 11 : 21 b.

2. königlich

代上22 : 10. エス1 : 2. 1 : 7. 1 : 9. 1 : 11. 1 : 19. 2 : 16. 2 : 17. 4 : 14. 5 : 1 a. 5 : 1 b. 5 : 1 c. 6 : 8 a. 6 : 8 b. 8 : 15.

3. Reich

民数24：7. 代下1：1. エス1：20. 詩45：6(7). 103：19. 145：
13 a. 145：13 b. ダニ1：1. 1：20. 2：1. 11：4 a. 11：4 b.
11：9. 11：20.

4. König sein, werden

代下29：19. エズ4：6 a. エレ52：31.

5. regieren

エズ7：1. 8：1.

Reich なる語は、ラテン語の *regnum* と、共通の語源を持っていて、*rex* や *regere* と関連を持つので、本来は単に Reich と言っても Königreich と言っても、共通の意味を有していた。もちろん、Reich よりも Königreich と言った方が、*könig* の Reich であるので、一層明確ではある。それで Königreich と Reich と、それぞれの使用回数を合計すると 69 回になる。それを *malkuth* に対する比を求めると、77 パーセントになる。それは偶然かも知れぬが、*basileia* の比の 77 パーセントと同じ数である。しかし、Königreich と Reich とをあえて区別すれば、前者が 55 回、後者が 15 回であって、それぞれが *malkuth* に対する比は 62 パーセントと 16 パーセントとになる。そうすると、5 種類の訳語の中で最も大きいパーセントを占める語は Königreich の 62 パーセントとなる。Luther において、ようやく *malkuth* の訳語が多様化したと言えよう。

malku の訳語を Luther に求めると次のようになる。

- | | |
|---------------|------|
| 1. Königreich | 36 回 |
| 2. Reich | 14 回 |
| 3. königlich | 1 回 |
| 4. besitzen | 1 回 |
| 5. 欠如 | 4 回 |

以上の訳語の使用個所は次のごとくである。

1. Königreich

省略する。

2. Reich

エズ7：13. ダニ2：42. 4：3 a. 4：3 b. 4：34. 5：31. 7：
14. 7：18. 7：22. 7：23 a. 7：23 b. 7：24. 7：27 a. 7：27

3. königlich

ダニ 4 : 36. 5 : 20.

4. besitzen

ダニ 7 : 18.

5. 欠如

ダニ 2 : 40. 6 : 1. 7 : 27 b. 7 : 27 d.

Königreich 36回と Reich 14回とを合計して 50回とするならば、それが malku 57回に対して占める比率は87パーセントである。さらに、それを別々に取り扱うならば、前者は63パーセント、後者は24パーセントである。それ故に、malku のドイツ語訳の種類はかなり多様化したことになる。malku のギリシャ語訳もラテン語訳もパーセントの数は非常に大きかったが、ドイツ語になると、それがかなり多様化したことになる。

AV において malkuth は次のような語に訳された。

1. kingdom 51 回

2. reign 22 回

3. royal 13 回

4. realm 2 回

5. empire 1 回

それぞれの使用箇所は次のごとくである。

1. kingdom

民数 24 : 7. サム上 20 : 31. 王上 2 : 12. 代上 11 : 10. 12 : 23. 14 : 2. 17 : 11. 17 : 14. 22 : 10. 28 : 7. 代下 1 : 1. 2 : 1. 2 : 12. 7 : 8. 11 : 17. 12 : 1. 33 : 13. 36 : 22. エズ 1 : 1. ネヘ 9 : 35. エス 1 : 2. 1 : 4. 1 : 14. 2 : 3. 3 : 6. 3 : 8. 4 : 14. 5 : 3. 5 : 6. 9 : 2. 9 : 30. 詩 45 : 6(7). 103 : 19. 145 : 11. 145 : 12. 145 : 13 a. 145 : 13 b. 伝道 4 : 14. エレ 10 : 7. ダニ 8 : 22. 8 : 23. 10 : 13. 11 : 4 a. 11 : 4 a. 11 : 9. 11 : 17. 11 : 20. 11 : 21 a. 11 : 21 b.

2. reign

代上 26 : 31. 29 : 30. 代下 3 : 2. 15 : 10. 15 : 19. 16 : 1. 16 : 12. 20 : 30. 29 : 19. 35 : 19. エズ 4 : 5. 4 : 6 a. 4 : 6 b. 7 : 1.

8 : 1. ネヘ12 : 22. エレ49 : 34. 52 : 31. ダニ1 : 1. 1 : 20. 2 : 1. 8 : 1.

3. royal

代上29 : 25. エス1 : 7. 1 : 9. 1 : 11. 1 : 19. 2 : 16. 2 : 17.
5 : 1 a. 5 : 1 b. 5 : 1 c. 6 : 8 a. 6 : 8 b. 8 : 15.

4. realm

ダニ9 : 1. 11 : 2.

5. empire

エス1 : 20.

king が König と共通の語源を有することは誰にでも知られている。kingdom の dom は condition や state をあらわす suffix であって、thralldom, wisdom などの場合の dom と同じである。それ故に kingdom とは第一に kingly function, authority, 又は power を意味し、sovereignty や kingship の意味でもあった。それが、次ぎに monarchical state や government の意味になり、最後に king が支配する territory や country をも意味するようになった。AV が訳された頃、kingdom には、以上のように少くとも3つの意味が含まれていた。それ故に malkuth が AV において kingdom と訳された時、それを読む者は、本文の文脈によって解釈するより外に方法はなかったであろう。

reign はラテン語の regnum や regula と関連を持ち、古い英語としては royal rule, sovereignty を意味し、kingdom や realm と同一意味に用いられたこともあったが、後には period of rule の意味になり、AV が訳された頃は、大体治世の意味であった。

realm はフランス語の royaume と関連を持ち、古い英語では kingdom の意味であった。

それ故に、kingdom はドイツ語などと近い関係にあるが、reign や realm はフランス語やラテン語の系統に由来する。AV が訳された頃、kingdom と realm と、どのように区別されたのか、正確に理解することは容易でない。ただ印象としては realm より kingdom の方がいくらか包括的のように見える。但し、それは kingdom の中に kingship の意味をある程度まで含めて読み取る場合である。

malkuth の第一義は、Königsherrschaft であり、その第二義は Königswürde

であり、それからいろいろの意味に用いられたと Köhler にしたがって、その語を理解したが、英語の kingdom をどの程度まで Königsherrschaft に傾いて読むのか、それとも、government や territory の意味に傾いて読むのか人によってかなりの相違が AV の時代にあったであろうが、今日は AV の時代より三百数十年たっているので、その読み方は人によってさらに千差万別であるかも知れない。

AV において malkuth の訳として kingdom は、51回用いられたので、その比率は57パーセントである。basileia や regnum の使用回数に比較して大巾に減少したが、それだけに malkuth の内容をよく踏まえてこのように訳したと考えられる。

AV において malku は次のような語に訳された。

1. kingdom 49 回
2. reign 4 回
3. realm 3 回
4. kingly 1 回

なお、以上の訳語の使用個所は次のごとくである。

1. kingdom

ダニ 2 : 37. 2 : 39 a. 2 : 39 b. 2 : 40. 2 : 41. 2 : 42. 2 : 44 a.
2 : 44 b. 2 : 44 c. 4 : 3 a. 4 : 3 b. 4 : 17. 4 : 18. 4 : 25.
4 : 26 : 4 : 29. 4 : 30. 4 : 31. 4 : 32. 4 : 34. 4 : 36 a. 4 : 36
b. 5 : 7. 5 : 11. 5 : 16. 5 : 18. 5 : 21. 5 : 26. 5 : 28. 5 :
29. 5 : 31. 6 : 1 a. 6 : 1 b. 6 : 4. 6 : 7. 6 : 26 a. 6 : 26
b. 7 : 14 a. 7 : 14 b. 7 : 18 a : 7 : 18 b. 7 : 22. 7 : 23 a. 7
: 23 b. 7 : 24. 7 : 27 a. 7 : 27 b. 7 : 27 c. 7 : 27 d.

2. reign

エズ 4 : 24. 6 : 15. ダニ 6 : 28 a. 6 : 28 b.

3. realm

エズ 7 : 13. 7 : 23. ダニ 6 : 3.

4. kingly

ダニ 5 : 20.

malku の訳として、kingdom の比は 86パーセントであって、malkuth の訳としての kingdom よりその割り合いはかなり多い。しかし、basileia や

regnum が占めるようなパーセントの数にまでは至っていない。

malkuth と malku との英訳を合算すると、kingdom の占める割合は 67 パーセントであるから、basileia や regnum の比よりかなり低い。

最近出版された NEB において、malkuth は次のような語に訳された。

1. kingdom	31 回
2. reign	19 回
3. royal	18 回
4. sovereignty	6 回
5. king	5 回
6. throne	2 回
7. kingly	1 回
8. royalty	1 回
9. dominion	1 回
10. crown	1 回
11. accession	1 回
12. realm	1 回
13. palace	1 回
14. 欠如	1 回

以上の訳語の使用されている箇所は次のごとくである。

1. Kingdom

民数24：7. 代上17：11. 17：14. 代下1：1. 11：17. 12：1. 36：22. エズ1：1. エス1：4. 1：14. 1：20. 2：3. 3：6. 3：8. 5：3. 5：6. 7：2. 詩145：11. 145：12. 145：13 a. 145：13 b. 伝道4：14. ダニ1：20. 8：22. 8：23. 11：2. 11：4 a. 11：4 a. 11：4 b. 11：9. 11：21 b.

2. reign

代上26：31. 29：30. 代下3：2. 15：10. 15：19. 16：1. 16：12. 29：19. 35：19. エズ4：5. 4：6 a. 7：1. 8：1. ネへ12：22. エレ49：34. ダニ1：1. 2：1. 8：1. 9：1.

3. royal

代上14：2. 代下2：1. 2：12. 7：18. エス1：2. 1：19. 1：11. 1：19. 2：16. 2：17. 5：1 a. 5：1 b. 6：8 a. 6：8

b. 8 : 15. 詩45 : 6(7). ダニ11 : 20.

4. sovereignty

代上12 : 23. 22 : 10. 28 : 5. 28 : 7. 29 : 25. 代下36 : 20.

5. king

代上11 : 10. ネヘ9 : 35. エス1 : 7. 9 : 30. ダニ11 : 21 a.

6. throne

王上2 : 12. 代下33 : 13.

7. kingly

詩103 : 19.

8. royalty

エレ10 : 7.

9. dominion

ダニ11 : 17.

10. crown

サム上20 : 31.

11. accession

エレ52 : 31.

12. realm

代下20 : 30.

13. palace

エス5 : 1.

14. 欠如

エズ4 : 6 b.

malkuth 89回の中で、kingdom 31回の比は僅か34パーセントにすぎない。AV において kingdom は57パーセントにまで減少したが、NEB において、その語はさらに大きく減少した。これは注目に価いする現象でなければならぬ。

AV で reign は22回であったが、NEB でそれは19回なので、幾ら減少したとしても、大きな変化ではない。AV で13回であった royal は NEB で18回に増加した。以上のことよりも、AV に比較して NEB で大きく変化したことは、訳語の数が増加したことであって、13種類の語に区別して訳出された。

訳語によって起る新約聖書用語の屈折について

NEBにおいて malku は次のように英訳された。

1. kingdom	38回
2. kingly power	5回
3. royal	4回
4. sovereignty	3回
5. reign	3回
6. realm	1回
7. power	1回
8. year	1回
9. 欠如	1回

以上の語は次の箇所で使用されている。

1. kingdom

エズ7:13. ダニ2:37. 2:39 a. 2:39 b. 2:40. 2:41. 2:42. 2:44 a. 2:44 b. 2:44 c. 4:3 a. 4:3 b. 4:17. 4:18. 4:25. 4:31. 4:32. 4:36 a. 4:36 b. 5:7. 5:11. 5:16. 5:18. 5:21. 5:26. 5:28. 5:29. 5:31. 6:1 a. 6:1 b. 6:3. 6:4. 6:7. 7:23 a. 7:23 b. 7:24. 7:27 b. 7:27 c.

2. kingly power

ダニ6:26. 7:14. 7:18. 7:22. 7:27 a.

3. royal

ダニ4:29. 4:30. 5:20. 6:26.

4. sovereignty

ダニ4:26. 4:34. 7:14.

5. reign

エズ4:24. ダニ6:28 a. 6:28 b.

6. realm

エズ7:23.

7. power

ダニ7:27 d.

8. year

エズ6:15.

9. 欠如

ダニ7：18 b.

kingdom 38回が、malku 57回に対する比は66パーセントである。これをAVにおけるkingdom 86パーセントの比にくらべると、減少している。また、AVにおいてmalkuの訳語の種類は4種類であったのに対して、NEBにおいて、その訳語は8種類に増加したので、NEBはmalkuの内容を理解する点において、豊富になり、また、それだけ正確になったと言ってよいであろう。NEBにおいてmalkuthの訳としてのkingdom 31回と、malkuの訳としてのkingdom 38回とを合計すると69回になり、malkuth 89回とmalku 57回との合計146回に対する比は、47パーセントになる。

Köhlerの辞典で、前述のごとく、malkuthをKönigreichと解した個所が18個所あり、malkuをkönigreichとした個所が33個所あって、その合計は51回になる。この数字をNEBにおけるkingdomの69回と比較することは、決して正しくはないが、NEBの69なる数は、51との間に未だひらきを示しつつも、ある程度まで近づく方向にあることは疑えない。

口語訳においてmalkuthは次のような邦語に訳された。

1. 国	45回
2. 治世	18回
3. 王	18回
4. 王国	3回
5. 政	2回
6. 王・(座)	1回
7. 朝(服)	1回
8. 即位	1回

以上の語が用いられている個所は次のごとくである。

1. 国

民数24：7. 王上2：12. 代上11：10. 12：23. 14：2. 28：5. 28：7. 代下1：1. 11：17. 12：1. 20：30. 33：13. 36：20. 36：20. エズ1：1. ネヘ9：35. エス1：2. 1：4. 1：14. 1：20. 2：3. 3：6. 3：8. 4：14. 5：3. 5：6. 7：2. 9：30. 詩145：11. 145：12. 145：13 a. 145：13 b. 伝道4：14. エレ10：7.

ダニ 1 : 20. 8 : 22. 8 : 23. 10 : 13. 11 : 2. 11 : 4 a. 11 : 4 b.
11 : 9. 11 : 17. 11 : 20. 11 : 21 b.

2. 治 世

代上26 : 31. 代下 3 : 2. 15 : 10. 15 : 19. 16 : 1. 16 : 12. 29 : 19.
35 : 19. エズ 4 : 5. 4 : 6 a. 4 : 6 b. 7 : 1. 8 : 1. ネヘ12 :
22. エレ49 : 34. ダニ 1 : 1. 2 : 1. 8 : 1.

3. 王

代上22 : 10. 29 : 25. 代下 2 : 1. 2 : 12. 7 : 18. エス 1 : 7. 1 :
9. 1 : 11. 1 : 19. 2 : 16. 2 : 17. 5 : 1 a. 5 : 1 c. 6 : 8 a.
6 : 8 b. 詩45 : 6(7). ダニ 9 : 1. 11 : 21.

4. 王 国

サム上20 : 31. 代上17 : 11. 17 : 14.

5. 政

代上29 : 30. 詩103 : 19.

6. 王・(座)

エス 5 : 1 b.

7. 朝(服)

エス 8 : 15.

8. 即 位

エレ52 : 31.

口語訳の最大の特長は「国」なる語が圧倒的に多いことである。ヨーロッパ語ならば、*basileia*, *regnum*, *Königreich*, *kingdom* などと当然訳されるところを、口語訳は一律に「国」と訳して、その回数は45回の多きに及んだ。その数が絶対的に多いと言うことよりも、「王国」と訳された個所が僅か3回しかないことが、口語訳の特長である。ヨーロッパ語の訳を見なれている人にとって、「国」は *basileia* その他の語を連想させるかも知れぬが、一般の日本人にとって、「国」とは *land* すなわち「国土」か、あるいは *state*, *nation*, すなわち「国家」を多く想わせるであろう。

口語訳のもう一つの特長は、「王」という訳が18回もあることであって、Luther の *königlich* の15回、AV の *royal* の13回より幾分増加している。

口語訳において *malku* は次のような語に訳された。

1. 国 48回

2. 治世	3回
3. 王	3回
4. 世	2回
5. 主権	1回

以上の語の使用個所は次のごとくである。

1. 国

エズ7：13. 7：23. ダニ2：37. 2：29 a. 2：39 b. 2：40. 2：41. 2：42. 2：44 a. 2：44 c. 4：3 a. 4：3 b. 4：17. 4：18. 4：25. 4：26. 4：31. 4：32. 4：34. 4：36 b. 5：7. 5：11. 5：16. 5：18. 5：21. 5：28. 5：29. 5：31. 6：1. 6：2. 6：3. 6：4. 6：7. 6：26 a. 6：26 b. 7：14 a. 7：14 b. 7：18 a. 7：18 b. 7：22. 7：23 a. 7：23 b. 7：24. 7：27 a. 7：27 b. 7：27 c. 7：27 d.

2. 治世

エズ4：24. 6：15. ダニ5：26.

3. 王

ダニ4：29. 4：30. 5：20.

4. 世

ダニ6：28 a. 6：28 b.

5. 主権

ダニ2：44 b.

口語訳における *malku* の訳の中で全く圧倒的に多いのは「国」の48回である。それが全体に対して占める割合は84パーセントである。

口語訳における *malkuth* と *malku* との訳としての「国」を合算すると93回になり、それは全体の63パーセントを占めている。

以上、*malkuth* と *malku* との訳語を LXX, Vulg, Luther, AV, NEB, 口語訳と並べて見ると、次のようなことが言えるであろう。

1. LXX と Vulg とは大体平行していて、LXX が Vulg に及ぼした影響は甚大であって、Vulg は大体 LXX の線に沿っている。

2. LXX と Vulg とは、大体 *basileia* と *regnum* とでその大多数を代表させている。但し、*basileia* と *regnum* とがどのような内容を盛っているかは、読者の判断にまかされるほど、その意味は必ずしも一様ではない。

3. Luther から、解釈に応じて訳語の多様化が始められ、AV において強化され、NEB では一層それは多様化された。すなわち、訳語は内容についてのりっぱな解釈となった。

4. 口語訳において、「国」なる訳語は、*malkuth* や *malku* の本来の意味を甚だしく不明確にした。すなわち、それが *melek* (王) と深い関連のある語であることを、ほとんど示さないような語に変えられた。

Schmoller 編になる新約聖書ギリシャ語の *Concordance* によると、*basileia* は次のように分類されている。

I *Regna mundi, Regna saecularia.*

II *Regnum Caelorum, Dei, Christi.*

a) *hē basileia tōn ouranōn.*

b) *hē basileia tou Theou.*

c) *Regnum Patris.*

d) *Regnum Filii, Christi.*

e) *Reliqui loci.*

この分類が絶対に正しいわけではないが、一応これに従って、*basileia* のラテン訳、シリア訳、Luther、AV、NEB、口語訳を比較して見たい。

新約聖書において、テキストの読み方に一つか二つの問題があり、したがって、*Vulg* の読み方にも一二の問題はあるにしても、*basileia* は一つの例外もなく *regnum* と訳されている。

I. マタ 4 : 8. 12 : 25. 24 : 7 a. 24 : 7 b. マル 3 : 24 a. 3 : 24 b. 6 : 23. 13 : 8 a. 13 : 8 b. ルカ 4 : 5. 11 : 17. 19 : 12. 19 : 15. 21 : 10 a. 21 : 10 b. 使徒 11 : 33. (17回)

II. a) マタ 4 : 17. 5 : 3. 5 : 10. 5 : 19 a. 5 : 19 b. 5 : 20. 7 : 21. 8 : 11. 10 : 7. 11 : 11. 11 : 12. 13 : 11. 13 : 24. 13 : 31. 13 : 33. 13 : 44. 13 : 45 a. 13 : 45 b. 13 : 52. 16 : 19. 18 : 1. 18 : 3. 18 : 4. 18 : 23. 19 : 12. 19 : 24. 20 : 1. 22 : 2. 23 : 13. 25 : 1. (32回)

b) マタ 12 : 28. 19 : 24. 21 : 31. 21 : 43. マル 1 : 14. 1 : 15. 4 : 11. 4 : 26. 4 : 30. 9 : 1. 9 : 47. 10 : 14. 10 : 15. 10 : 23. 10 : 24. 10 : 25. 12 : 34. 14 : 25. 15 : 43. ルカ 4 : 43. 6 : 20. 7 : 28.

8 : 1. 8 : 10. 9 : 2. 9 : 11. 9 : 27. 9 : 60. 9 : 62. 10 : 9.
 10 : 11. 11 : 20. 13 : 18. 13 : 20. 13 : 29. 14 : 15. 16 : 16. 17 : 20a.
 17 : 20 b. 17 : 21. 18 : 16. 18 : 17. 18 : 24. 18 : 25. 18 : 29. 19 : 11.
 21 : 31. 22 : 16. 22 : 18. 23 : 51. ヨハ 3 : 3. 3 : 5. 使徒 1 : 3.
 8 : 12. 14 : 22. 19 : 8. 28 : 23. 28 : 31. ロマ 14 : 17. コリ I 4 : 20.
 6 : 9. 6 : 10. 15 : 50. ガラ 5 : 21. エペ 5 : 5. コロ 4 : 11. テサ
 I 2 : 12. テサ II 1 : 5. (68回)

c) マタ 6 : 10. 6 : 33. 13 : 43. 26 : 29. ルカ 11 : 2. 12 : 31.
 (6回)

d) マタ 13 : 41. 16 : 28. 20 : 21. ルカ 1 : 33. 22 : 29. 22 : 30. 23
 : 42. ヨハ 18 : 36 a. 18 : 36 b. 18 : 36 c. エペ 5 : 5. コロ 1 : 13.
 テサ II 4 : 1. 4 : 18. ヘブ 1 : 8. ペテ II 1 : 11. (16回)

e) マタ 4 : 23. 8 : 12. 9 : 35. 12 : 26. 13 : 38. 24 : 14. 25 : 34.
 マル 11 : 10. ルカ 11 : 18. 12 : 32. 使徒 1 : 6. 20 : 25. コリ I 15 : 24.
 ヘブ 12 : 28. マコ 2 : 5. 黙示 1 : 6. 1 : 9. 5 : 10. 11 : 15. 12 :
 10. 16 : 10. 17 : 12. 17 : 17. 17 : 18. (25回)

以上の個所の中で マル 1 : 14 のテキストの読み方にはいろいろ解釈があ
 ろう。そこで、正確ではないが、新約聖書における *basileia* は大体 165 回位
 と見てよい。

Vulg において、*basileia* は一つの例外もなく、完全に、*regnum* の一語に訳
 されている。*basileia* をその後のヨーロッパ語に訳して単純に *Königreich*,
Reich, *kingdom*, *royaume* の中のいずれか一つに限定して訳することはできない
 し、また *regnum* においても同様である。*basileia* や *regnum* は *malkuth* や
malku ほど意味が多義に亘ってはいないにしても、近代のヨーロッパ語を用
 いて、たった一つの語で表現することはできない。

西側のローマ帝国で、Vulg が訳された頃、東側の辺地とも言うべきエデッ
 サ地方などで恐らく Peshitta と呼ばれる Syr が作られて行った。西側で作
 られた Vulg と東側で訳された Syr との間には、テキストの上で直接の関連
 は深くなかった。Vulg のラテン語とセム語であってヒブル語やアラム語と深
 い関連をもつ Syr とでは本来その性格を非常に異にしている。もっとも、
 その頃の Syr の中には、すでに、ギリシャ語が相当数混入していたし、ラ
 テン語もいくらか混入していたのではあるが。

Syrにおいて、ルカ21:10に2回だけ malku が用いられた外は、すべて malkuta で統一されている。malku はアラム語の malku と全く同じ語である。malkuta は malku の後尾を少し変化させた形であるが、全く同じ語であるので、malku と malkuta とは何ら区別されるべきでない。basileia が新約において、regnum で統一されたように、Syr では malkutah で完全に統一された。malk や malkuta が、本来、ヒブール語の malkuth に由来することは言うまでもない。旧約において malkuth を読む人は、その用法にしたがって、いくつもの意味に解釈すべきであったように、新約の Syr においても malkuta を読む人は、そのコンテクストにしたがって、いくつかの意味に解釈すべきであって、それを単純に狭義に限定すべきではない。

Schmoller の Concordance の分類にしたがって、その I (Regna mundi, Regna saecularia) に分けられると思われる個所を Luther で見ると次のごとくになっている。

1. Reich 6回

2. Königreich 5回

3. Königtum 2回

4. 欠如 4回

1. Reich

マタ4:8. 12:25. マル3:24. ルカ4:5. 11:17. 使徒1:6.

2. Königreich

マタ24:7. マル6:23. 13:8. ルカ21:10. ヘブ11:33.

3. Königtum 2回

ルカ19:12. 19:15.

4. 欠如

マタ24:7. マル3:24. 13:8. ルカ21:10.

Schmoller の分類の仕方の II Regnum Caelorum, Dei, Christi の a, b, c, d, e, の項に採録されている basileia を Luther によって読むと、ヨハネ黙示録に3回以下のような例外があるだけで、他はすべて、Reich と訳されている。Reich は regnum と関連をもつ語である。3回の例外とは、黙示録1:6と5:10とにある König と17:18にある Herrschaft である。この例外は僅か2パーセントであるから、全体から見れば、ほとんど問題にならない。Vulg において basileia は regnum で完全に統一されたが、Luther において basileia

は、Schmoller の仕分けによる I を別とすれば 98 パーセントまで、Reich と解釈された。しかし、I の項の訳を加えると、Königreich が 5 回ある。但し、König がついているだけの Reich にすぎないと言え、それまでであるが、Königreich と訳したことには意味があったであろう。Königtum が I の項に 2 回あることも、すでに述べた。

AV において、basileia はただ 1 カ所(ヨハネ黙示録 5 : 10 が king と訳されている)を例外として、他はすべて、kingdom と訳された。この点で、AV は Luther よりも、Vulg が regnum で統一した訳し方にもっと近接していると言えよう。他の訳語についても言えることであるが、AV は大体直訳的方法を採用している。

NEB において、basileia は次のように訳された。

1. kingdom	147 回
2. reign	5 回
3. sovereignty	5 回
4. king	2 回
5. royal	2 回
6. kingship	1 回
7. kingly authority	1 回
8. throne	1 回
9. hold sway	1 回

以上の語の使用されている個所は次ぎのごとくである。

1. kingdom

省略。

2. reign

ルカ 1 : 33. 19 : 11. テモ II 4 : 1. 4 : 18. 黙示 17 : 12.

3. sovereignty

使徒 1 : 6. 黙示 1 : 9. 11 : 15. 12 : 10. 17 : 17.

4. king

ルカ 19 : 12. 19 : 15.

5. royal

黙示 1 : 6. 5 : 10.

6. kingship

ルカ22：29.

7. kingly authority

ヨハ18：36.

8. throne

ルカ23：42.

NEBにおいて basileia は、その83パーセントが kingdom と訳された。その点で、AVの伝統は83パーセント生かされ、17パーセント改められたと言えよう。kingdom以外の訳語が18回使用されたが、その大部分は、本来 king なる語に由来するか、それに関連する内容であるものが多い。いずれも、basileiaの解釈である。AVが basileia を kingdom 一つに統一したのに比較すると、NEBはとにかく、kingdom以外に8種類の訳語を用いたところこその特長があると言えよう。

口語訳において basileia は、ほとんど全く「国」と訳されたが、次のように二つの例外的訳語がある。それは、「支配」と「王位」とである。「支配」はルカ1：33. 22：29. コロ1：13. ヘブ1：8. 黙示17：17. 17：18. の6箇所にある。「王位」は、ルカ19：12. 19：15との二箇所である。それで口語訳は basileia を95パーセントまで「国」と訳し、残りの5パーセントを二つの語で訳したことになる。NEBの方が、口語訳より遅れて出版されているから、当然ではあるが、NEBの訳語の方が口語訳より、いくらか多様に豊んでいる。口語訳の「国」が果して、basileia, regnum, Reich, kingdom と言うヨーロッパで展開されたような語義を卒直に表現しているか、大きな問題である。

旧約の malkuth あるいは malku が、そのまま新約の basileia に相当するとはけっして言えない。LXXにおいて、basileia と訳されたヒブル語の種類はかなり多くあって、けっして malkuth と malku との二つに限定されていない。詳しいことは Hatch-Redpath による LXX の Concordance を参照すれば明白になる。

それで、旧約の malkuth や malku は、LXX, Vulg, Luther, AV, NEB, 口語訳と時が進むにつれて、その内容の理解を表現するために、訳語が多様化された。新約の basileia は、この世の basileia にも用いられたが、その多くは神の basileia に用いられたこともあって、Vulg と AV には、全く一つの訳語しかなく、Luther が幾分それに含みを持たせた。NEB で、もっと大きく

訳語によって起る新約聖書用語の屈折について

大胆に展開されてもよいのであるが、矢張り長い間の伝統もあって、kingdomの訳語が主流を占めた。邦語の「国」が malkuth や basileia をどの程度に表現しているか。malkuth における melek, basileia における basileus, また melek や basileus の状態、権能、支配などを、どこまで「国」で表現できるか。今後、もっと研究せねばならぬ。

(1971年12月1日稿)

Studies in the Refractions found in the New Testament Translations (6)

Kunio KATO

Presupposing the necessity of linguistic study of the Old Testament written mostly in Hebrew, partly in Aramaic, the writer can not help to find so-called 'refractions' in New Testament Greek words, especially when the New Testament were translated into many languages, e. g. Latin, German, French, English and Japanese, in these versions. In this paper the writer tries to investigate whether 'Basileia' in Greek was 'refracted' in these translations or not. Malkuth (Hebrew) or Malku (Aramaic), originated from 'Melek' (king), meant primarily kingly sovereignty, rule and then kingdom. The writer does not know whether Malkuth or Malku could be translated, in the perfect sense, into Basileia (Greek) or not. But it is certain that Basileia meant something more than a kingdom in English.

In the Vulgate Basileia was translated into Regnum (Latin). It may be said that Regnum may be the exact equivalent of Basileia.

Though Martin Luther translated Malkuth and Malku, in his Bible, into some kinds of German vocabularies, generally speaking he translated Basileia into 'das Reich'. In the Authorized Version, Malkuth and Malku were translated into many English words, but Basileia was unexceptionally translated into 'kingdom'. In the Japanese translation, Malkuth, Malku, and Basileia were translated, in many cases, into 'Kuni'. But there may be a possibility 'Kuni' can be understood to be 'Kokudo', a land.

The Peshitta, the Syriac New Testament translation, is perfectly exact in translating 'Basileia' into Syriac 'Malkutha' which apparently derived from Hebrew Malkuth or Aramaic Malku.

On the Deep Structure of 'Accusative with Infinitive' Constructions

Rikiya KATO

The underlined parts of the following sentences are traditionally called "accusative with infinitive" constructions;